

株式会社さくら都市総合研究所

清水 秀幸
主席 研究員17 都市の景観を
考える

選ばれたプランツアソシエイツのコンセプトは「つながる美術館」。12mに及ぶ敷地の高低差を生かしながら、西側の善光寺、そして北に並ぶ東山魁夷館への連続性も確保されている。

その中で、宮崎浩氏は基本的な構成要素として、「善光寺・城山公園とつながる大地の地盤」「東山魁夷館とつながる建築の地盤」「東面道路と彫刻公園につながる地盤」という3つのレベル(地盤)を提案し、それぞれの高さに応じた床(ゆか)を設けることで、様々な場所からの入館動線を確認した。

読者もご存知のように、長野県内には全国最多、105のミュージアムがあり、今回新たに計画される美術館は、県内ミュージアムのフラッグシップとして各館の情報収集拠点であるとともに、その発信拠点の役割も果たすことになる。

それだけに、同館のアイデンティティについては、多くの県民の意見を聞くことを前提に、県内各地において活発なミニ・フォーラム(意見交換会)が開催された。

そしてまた、今回の同館全面改築に伴って、長野市の最も歴史のある城山公園の再生にも手が入った。

城山公園は、大正天皇の成婚記念を起源として1901(明治33)年に造られた1世紀を超えた歴史ある公園であり、市民はもとより善光寺参拝に訪れる観光客など、多くの老若男女に愛され、親しまれ続ける長野市の代表的公園である。

長い歴史の中でも、同公園を主会場に開催された長野産業文化博覧会(※)、既に撤去され、現在のふれあい広場にあたる市営城山野球場でのプロ野球公式戦など、その賑わい

の史実には事欠かない。中でも、建設当時には東洋一の吹きあがりの高さを誇った公園のシンボルである噴水、そしてその北側で色とりどりの豊かな花に囲まれた花時計等々、これらの公園の遺産についても再整備の手が入ることになる。

その再整備検討の主幹となるのが、昨年4月に発足した学識経験者や各種団体、地元役員等から構成される「城山公園再整備検討委員会」。筆者も都市計画という専門分野からその末席に就いている。

(続く)

※長野産業文化博覧会は61(昭和36)年4月1日〜5月21日に開催。同年4月には大きな文化施設に対する市民の熱意に応え、旧長野市民会館が建設された(長野市HP)

清水 秀幸氏(しみず・ひでゆき)1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商会役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか6委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長